

銀漢亭日録



伊藤伊那男

6月8日(金)

▼大西真一さん五十七歳の誕生会。自分で企画して人を集め、自分で司会するという不思議な会。四十数人集まる。あとから「件の会」のあと鳥居真里子さん他も。

9日(土)

▼雨。十時より発行所にて運営委員会。昼、「いもや」の海老天定食。あとやはり胸焼けす。十三時より「ひまわり館」にて「銀漢本部句会」。五十七人出席で、清記用紙四十二枚廻る。あと「笑々」にて親睦会二十人。帰路、渋谷「福ちゃん」で小酌。

11日(月)

▼九時、武田編集長が七月号最終校正を家に取りに来る。店、松山さん他、閑古鳥二十時。看板入れてしまふ。こんな時間に終ったのは初めて。二十二時、富士見が丘駅前の店に入り、浅蜷バター、栄螺の壺焼などくつろぐ。

12日(火)

▼「火の会」十人。発行所は「洋酔塾」。終って店にて「洋酔さん古希を祝う会」。十七人。展枝てる緒さん料理持ち寄ってくれる。ピングゲームなどもあり賑やか。(花は葉へ酔余の果ての古希といふ)

13日(水)

▼平成俳壇選句発送、「火星」六月号秀句選送る。これで「銀漢」八月号の執筆に入れる。山形の地域情報誌「cradle」の依谷敦子さんより月山筍、うるい、落などが届く。発行所、午後「梶の葉句会」選句。夜「ささらぎ句会」終って八人。「りいの」山崎祐子さん、毎日新聞鈴木琢磨さん、赤羽良剛さん、大正大学教授・渡邊直樹氏(元太陽編集長)と……などなど盛況。

14日(木)

▼午前中、派遣の家政婦さんに家の掃除に入ってもらう。店、オリックス時代の神村君、東大ベンチプレス部仲間三人。春行士、入沢、深川さん。

16日(土)

▼十時三十七分、新幹線にて名古屋経由で岐阜へ。雨。萩原

17日(日)

空木さんの元気な姿に会えて嬉しい！金華山の天守より梅雨の濃尾平野を見る。鶴匠の宿「すぎ山」にて十五時半より三句出しの句会。三十八人。十七時半より食事会。若鮎の塩焼、鮎雑炊、佳味。十九時半より舟に乗り、鵜飼を楽しむ。雨にて開催を心配していたがむしろ水量が増えてよかった。六隻揃ったの総がらみは圧巻。あと禪次さんと鶴匠の家周辺を巡る。二十一時過からカラオケ。部屋に戻って洋酔さんと少し飲む。

19日(火)

▼朝風呂、朴葉味噌などの朝食。九時より五句出し句会。川は前日の雨で水量が増しており晴れてはいるが今日は鵜飼中止。昼、解散。名古屋駅地下街にて坪井さんの案内で名古屋グルメの味噌カツ、土手焼などで酒盛り。洋酔、展枝、真一、政三、坪井、まほ、絃子……なんだ、結局いつもの酒飲みの吹溜り。新幹線の車中も酒盛り。爆睡。

20日(水)

▼発行所七月号発送作業。夜、発行所「はてな句会」。岸本尚毅、今井肖子、阪西敦子さんなど八人。あと店にて打上げ。伊那北高同期の定例会、少く四人。そへ十六年下の同窓、月野ぼな(NY在住、「海程」)が来て台流。柴山つぐ子さんの「北軽井沢句会」百回を迎えるとして特集号へお祝いの文章送る。

21日(木)

▼「銀漢句会」あと十八人。群馬から踏青子さん初参加。句会指導の杉阪、三代川さん体調崩したとて休み。店、全体、繁忙。

23日(土)

▼十四時、日本橋「写志喜」で「纏句会」。「海程」同人、月野ぼなさんをゲスト。十三人。兼題七句。席題三句の十句出し句会。句会あとカウンターを囲み、鮎の風干、蟹と茄子のあんかけ、兼題の「鰻」の南蛮漬、握り。十七時半、ぼな、洋

7月1日(日)

二日が締切であつた、大慌て。
▼午後、中野サブプラザにて「春耕同人句会」。終って暑氣払いの会。三十人程。久々、色々な方と話。

2日(月)

▼発行所「かささぎ」勉強会。松本たかしと。みつちり「二十時半位まで。終って十人店へ。オリックス時代の取引先河田さん。「りいの」山崎祐子さんと編集の方々など。七夕の短冊。天井に吊るし始める。

3日(火)

▼角川通信添削二八分。湯島句会報校正、平成俳壇選句に入る。発行所は事業部打合せ。「鍛錬句会」の運営について。「月の匣」水内主宰、水香編集長来店、一緒に飲む。松山の藤田ひろむ氏より素麺到来。いわき地方史研究会会長・大竹憲治氏がいわき民報の「楽我季帳」に「俳誌銀漢と盤水忌」の題で盤水先生についての座談会の記事を取り上げてくれる。礼状。

4日(水)

▼発行所「ささらぎ句会」終って八人店へ。まほさんが地芝居の写真家・山口清文氏を案内。写真集二冊サイン入りでいただく。

5日(木)

▼店、越村蔵さん(元俳句朝日編集長)。映画「ほかいびと伊那の井月」の北村監督を囲んで吉田悦花、相子智恵、西村麒麟、阪西敦子さん他。映画は現在、大阪にて上映中。丁度、昨日、朝妻力さんより電話あり、映画の感想、紹介のプロダグ貰ったので監督に渡す。監督より、竹入弘元先生(高校の恩師)解説の「井月編俳諧三部集」をいただく。発行所は浴衣の着付教室。淳子さんを先生に五人。

7日(土)

▼十時より発行所運営委員会。昼、「いもや」の天井。すぐに胃薬飲んでおく。十三時より「銀漢本部句会」五十七名と盛況。清記用紙四十枚廻る。あと「庄屋」にて親睦会。私の誕生日ということで三十数名集まってくれる。バーステークーキまで用意。杉阪大和さんの「おめでどうございます！」のパフォーマンスもあり、感激。嬉しい誕生日となる。

25日(月)

▼「五十四回」湯島句会」。出句九十九人。当日参加四十九人！スタッフの努力で合理化された運営ながら披露で一時間四十五分かかる。それにしても熱気あり。あとNYに來週帰るぼなさんを囲み洋酔他で新宿「ひまわり」二時過ぎまで歌う。

26日(火)

▼昨夜は酒控えたのですっきり起床。というのは木曜日「俳句四季」の座談会あり、六冊の句集を読まなくてはならないのだ！「萩句会」あり選句に行く。店、玲奈さん取引先と。伊那から小池百人さん。閉めてから百人さんと飲直し。

27日(水)

▼座談会用句集調べ。と、犬のバラ膝の上に来て何と！オシッコ。はけたのか？ 気に入らないことがあつたのか？ トホホ。店、もうつつ盛り上がり。

28日(木)

▼早起きして座談会の資料まとめようと思っていたが八時過ぎ。あわてて大の散歩、シャワーなど……。十時より市ヶ谷ルアールにて筑紫磐井、斎藤慎爾、鳥居真里子さんと六冊の句集についての座談会。十三時迄。発行所「十六夜句会」。今日は花果さんがゲスト。終って八人店。閑散。終って数名でリニューアルになった餃子屋。

29日(金)

▼午前中、家のお掃除入つてもらう。前回から福住家政婦紹介所の安藤さん。店、稲畑曠太郎、小暮陶九郎、阪西敦子、相沢文子さん「ホトトギス」発行所句会のことか？ 洋酔さん。遅くにしなだしんさん、今井杏太郎氏の通夜のあとと。享年八十四。杏太郎先生とは「塔の会」で緒であった。秩父などへ旅行したこともあった……。

30日(土)

▼整体、日用品買物、散髪。店の月次表作成、トホホ、悪い……。角川通信添削一枚。「井上井月俳句大会」の選句(七月